

「復活の主の赦し」

ヨハネによる福音書二一章一五節―一五節

南山教会 二〇二〇年五月三日

村山盛芳

復活のイエスはガリラヤで弟子たちに出会い、一緒に食事をされました。食事の後、イエスはペトロにお尋ねになります、「あなたはわたしを愛するか」(一五節)。ここで、愛するという言葉は「アガパオー」が使われています。「アガペ」の動詞形です。ギリシヤ語の「愛」には、アガペとフィリアがありますが。アガペは神が人を愛する時に用いられる絶対的な愛、フィリアは人間相互の相対的な愛を指します。イエスはペトロに「わたしがあなたを愛したように、あなたもわたしを愛するか」と尋ねておられるのです。それに対してペトロは、「わたしがあなたを愛していることはあなたがご存知です」と答えます。ここでペトロは「フィレオー」と答えています。フィリアの動詞形です。「私は人間の限界内ではしかあなたを愛することは出来ません」とペトロは答えています。

イエスは最後の晩餐の時に弟子たちに言われました「わたしはこれから十字架につく。あなた方はわたしの行く所についてくることは出来ない」(一三章三三節)。その言葉に対してペトロは、「主よ、何故ついていけないのですか。あなたのためなら命を捨てます」と言います。そのペトロに対してイエスは答えられます、「鶏が鳴くまでに、あなたは三度わたしのことを知らないと言うだろう」(一三章三八節)。イエスの言葉通り、ペトロは三度イエスを否認しました。イエスを裏切った出来事は、ペトロの心の中に重い罪責として残った

ことでしよう。人間の限界を知ったペトロは、「どんなことがあってもあなたを愛します」と答えることは出来ません。ですから「アガパオー」と問われるイエスに、「フィレオー」としか答えることが出来ません。

二度目にイエスは問われます「わたしを愛しているか」。依然として、「アガパオーとして愛するか」と問われています。そのイエスにペトロは「フィレオーとしてしか愛することは出来ません」と答えます。三度目にイエスは尋ねられます。「わたしを愛しているか」、ここで「愛する」は、「アガパオー」から「フィレオー」に変えられています。「あなたのできる範囲で愛すれば良い」とイエスの譲歩です。このイエスの優しさにペトロは「主よ、あなたは何もかもご存知です。わたしがあなたを愛していることをあなたはご存知です」

(一七節)と言います。「私が弱さゆえにあなたを裏切ったことをあなたはご存知です」とペトロは罪を認め、告白します。

三度、イエスは「わたしを愛しているか」と問われました。ペトロは悲しく、また情けなくなつたでしょう。イエスは私の言うことを信じてくださらないのか。その悲しみの中でペトロは告白します、「私はあなたを裏切りました」。三度「イエスを知らない」と言つたペトロに、「私を愛するか」と三度迫られるイエス、ここに裁きがあります。その裁きがペトロを罪の告白と悔い改めへと導きました。罪は罪として裁かれなければいけません。その裁きの上にこそ赦しがあります。イエスは私たちを罰するためではなく生かすために裁かれます。罪は無条件に赦されてはいけません。罪を罪として認める、そこに初めて赦しが成立します。ですからイエスはペトロに言われます「私の羊を飼いなさい」と。

人は挫折を通して神に出会います。挫折し、罪を告白し、悔い改めた者が、神の委託に応

えることが出来ます。だからイエスは悔い改めたペトロにご自分の群れ、教会を委託されました。牧者、現代の牧師の資格は、神学の勉強をした、聖書に精通している、指導力がある、人格的に優れていることではありません。自分の弱さを知り、その弱さを赦された体験を持つ者が、牧者として召されます。自分の弱さを知る故に他者の弱さを責めず、赦された故に他者を赦すことが出来るからです。

ペトロに教会を委託された後で、イエスは言われます、「あなたは、若い時は、自分で帯を締めて、行きたいところへ行っていた。しかし、年をとると、両手を伸ばして、他の人に帯を締められ、行きたくないところへ連れて行かれる」（一八節）。他の人に帯を締められ、逮捕されて、両手を伸ばして十字架に両手をはりつけにされて、ペトロが殉教の中で死ぬであろうことをイエスは預言されています。それを暗示するのが一九節の言葉です。「ペトロがどのような死に方で、神の栄光を現すようになるかを示そうとして、イエスはこう言われたのである」。しかし、ペトロにはまだ人間としての迷いがあります。だから彼は聞きまです「ここにいるヨハネはどうなるのですか」（二二節）。ヨハネも殉教するかどうかをペトロは聞いています。イエスは言われます、「ヨハネの行く末はあなたには関係がない。あなたは私に従いなさい」。イエスの弟子になるとは、イエスに従うことです。従う時、ペトロのように殉教の道を歩む人もあるかもしれないし、他の人は別な道を歩みます。ヨハネは、その後エフェソに行き、そこで天寿を全うして死んだと言われています。「あなたは私に従いなさい」、人はそれぞれの賜物と使命を与えられ、それぞれの場で神の栄光を現します。「ヨハネにはヨハネの道があり、あなたにはあなたの道がある。それで良いではないか、あなたは私に従いなさい」とイエスは言われます。私たちもある人は才能に恵まれ、他

の人は奉仕の心にあふれています。それぞれの人が自分の出来ることを精一杯していけば良い、そこに共同体としての教会が生まれます。

イエスは「あなたは私を愛するか」と問われます。イエスは挫折した者を捨てられませんが、むしろ挫折によって自分の無力を知った者にこそ、神の業を託されます。この赦しと委託から、悔い改めが生じ、その悔い改めが罪責感からの立ち直りをもたらします。ペトロも「私の羊を飼いなさい」という言葉により赦され、「従いなさい」という言葉により、新しい役割を担って立ち上がりました。全ての人は罪人であり、その中に弱さと愚かさを持ちます。自分がそういう存在であることを知って泣き、それでも神は受容して下さることを知って、新しく生きる者になります。キリストの愛は、もう一度やり直すことを認める愛です。教会はそのような失敗者が集まる場所です。教会は罪の赦しと委託の上に立てられています。赦されたのだから、赦しなさい。赦しのない社会の中であって、私たちは赦し合える共同体を形成するのです。そこが教会です。